

# 令和6年度学校自己評価システムシート（県立所沢高等学校）

目指す学校像	多様な生徒一人一人に相応し、社会的自立を促す親身あふれる温かい教育
--------	-----------------------------------

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業を大切にし、学習意欲を向上させ、基礎学力を定着させる</li> <li>2 家庭や地域との連携を強め、教育活動を一層充実させる</li> <li>3 学校行事等の多様な学びの機会を通じて、社会人として自立できる力を育成する</li> </ol>
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	3名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	5名

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 2 月 3 日 現 在 )			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	<p>【現状】 入学を希望する生徒のバックグラウンドは様々であり、異なる背景や学習スタイルを持つ生徒一人一人の学力差が大きい。また、教室が多様化していることで、異なる学習ニーズが存在している。</p> <p>【課題】 個々の学力に応じた学びを提供し、特別な支援を必要とする生徒や異なる学習ニーズを持つ生徒に対する適切な支援体制を強化していく必要がある。</p>	主体的に学ぶ生徒の育成	<ol style="list-style-type: none"> <li>①多様化する教室において、異なるニーズを持つ生徒一人一人の学力や理解度を把握し、目標達成に向けた適切な支援を実施する。</li> <li>②教材を多様化し、異なる学習スタイルやニーズに対応することで、すべての生徒が包括的な教育を受けられるようにする。</li> <li>③日本語支援員や学習サポーターなど外部人材を積極的に活用する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①②生徒の授業満足度</li> <li>①②主体的に授業に取り組む生徒の割合</li> <li>①②日常的に家庭学習を行う生徒の割合</li> <li>①②各学期の欠点保有者数</li> <li>③日本語指導の実施状況</li> <li>③外部人材の活用</li> </ol>	<p>84%の生徒が授業は分かり易いと捉えており、日常的に家庭学習を行う生徒は41%と半数弱ではあるが、75%(+10pt)の生徒が授業に意欲的に取り組む。ただし、苦手科目の克服にはつながらず、欠点保有者は1学期20名(+10)2学期24名(+15)と昨年度より大幅に増加している。しかしながら、その苦手意識はありながらも努力する姿勢は大いに見受けられる。</p>	B	様々な理由により定時制へ入学した生徒は、学力の面だけではなく意欲の面においてもその差が大きい。様々な異なるニーズに対応していくことが求められる。また、日本語能力のため、学習に支障をきたす生徒もいる。これら全ての生徒の意欲を高めていくことが課題である。そのため、個々に適切な目標を持たせることが求められる。
2	<p>【現状】 様々なバックグラウンドを持つ生徒の多様性を尊重したアプローチをすることで、個々のニーズや能力に合わせた支援の必要性が存在している。</p> <p>【課題】 生徒の抱える課題を把握し、地域や家庭と連携した個別最適な学びを、教育活動全般をとおして推進し、安心安全な学習環境づくりをしていく必要がある。</p>	地域の一員としての教育活動の推進	<ol style="list-style-type: none"> <li>①生徒の多様なニーズに対応するために、地域のリソースや専門知識を活用する。</li> <li>②地域の協力を得て、日本語を母語としない生徒への支援を実施する。</li> <li>③中学校や地域・家庭との情報共有によって、個別のニーズを把握する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①地域人材の活用状況</li> <li>②自分に満足している生徒の割合</li> <li>③保護者の学校理解度と満足度</li> <li>②③外部人材や地域機関との連携状況</li> </ol>	<p>中学校や家庭との連携にはまだ課題は多いが、アンケートでも昨年と度同程度の76%の生徒が心身の悩みに関する相談に適切に対応と回答しており、本校に入学して(させて)良かったという生徒は79%、保護者は87%と高評価を得られている。</p>	A	長期欠席とまではいかないが、2学期末現在で欠席日数10日を超える生徒が4分の1ほどいる。理由は様々であるが、生徒一人一人の実態を把握し、引き続き家庭や地域との連携、外部人材の活用によって登校しやすい環境を整えていくことが求められる。
3	<p>【現状】 約9割の生徒が本校に入学して良かったとアンケート回答しているが、約半数の生徒は今の自分に満足しておらず卒業後の目標も持っていない現状が存在している。</p> <p>【課題】 卒業後の自分自身を想像できるようにすることで自己効力感を高め、夢や目標を明確にしていく必要がある。</p>	社会を生き抜く力の育成	<ol style="list-style-type: none"> <li>①生徒の心に寄り添いながら、生徒が目的意識を持って学校生活を送れるように支援する。</li> <li>②学期末行事等とおして、世界で活躍する人の話を聞くなどすることで、目的意識を持って学校生活を送れるように支援する。</li> <li>③個々の能力を最大限に引き出し、自己効力感を高めることで、卒業後の目標を持たせる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①自分に満足している生徒の割合</li> <li>①②外部人材の活用状況</li> <li>③卒業後の目標を持っている生徒の割合</li> </ol>	<p>学校行事は楽しいと感じる生徒は73%と昨年度と同程度であるが、積極的に参加した生徒は55%(-14pt)と減少している。また、今の自分に満足している生徒は57%(+6pt)と増加し、卒業の目標を持っている生徒も53%と昨年度と同程度であることから、目標を持たせる指導では一定の成果が見られた。</p>	B	今の自分に満足している生徒が微増しているが、引き続き自己理解・他者理解を深める教育活動の実践が課題である。学習活動や学校行事で目標を持たせ、引き続き自己肯定感を高めることが求められる。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和7年2月15日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>コミュニケーション能力や日本語能力などが原因で、言葉を話すことや書くことによつての表現に困難を抱えている生徒にとって、パソコン等に入力することで表出することができる生徒もいるため、一人一台端末が難しければ各自のスマホ等であったとしても効果はあると思うので、それらを活用した教育活動を、引き続きお願いしたい。</p> <p>外部連携や地域とのつながりの一環として、海外とのリアルなつながりは非常に大切であり、非言語をあまり得意としない生徒にとって、それが例えオンラインであったとしても非日常の経験をすることは、内向き傾向で狭い世界の中で生きている日常の刺激となるため、引き続きお願いしたい。</p> <p>中学校などにおいて不登校等により各自の役割を経験してきていない生徒に、日々の学級活動や文化祭、体育祭などの学校行事等とおして、みんなと一緒に行うことでの達成感やそれがモチベーションへつながるような教育活動を、引き続きお願いしたい。</p>	